

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

| | | | |
|--|---|--------------|-------|
| 対象部局 | 31 中国学専攻 | 責任者 | 大橋 由治 |
| 基準4 | 教育課程・学習成果 | 自己評価 | A |
| ★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。 | | | |
| <<回答>> 大学基準における教育課程（DPとCPの関連性）の設定や公表、及びその運用状況において、カリキュラム運営や研究指導体制が適切に整備されており、一定の評価に値すると判断した。 | | | |
| 点検・評価項目(1) | 4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。 | | |
| ★<学位授与方針> 以下に後期課程のDPを示す。前期課程はこれに準ずる。学位授与方針（ディプロマポリシー） 文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（中国学）の学位を授与する。 1. （1）中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において高度な知識・技能を有しており、国際的かつ学際的に活躍するために必要な知識を身につけている。 （2）中国文学・中国史学・中国哲学の各分野や中国語の文献を読解し、的確に言語を使用することができる。 2. （1）中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において自ら発見した重要かつ未開拓の課題を学術的な観点から多角的かつ批判的に考察することができる。考察により得られた知見や意義を議論や論文などを通じて論理的に表現することができる。 3. （1）中国文学・中国史学・中国哲学の各分野において幅広い関心と問題意識を有し、多様な国際社会や地域社会で、自らの研究の成果を生かす高度な研究者・専門的職業人として積極的に貢献することができる。 （2）東洋の文化を基礎として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化を創造することができる。 | 変 更 | 有() 無(✓) | |
| 評価の視点1 【基礎要件●】 | 上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。 | | |
| 評価の視点2※ 【基礎要件●】 | 上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7 | | |
| 点検・評価項目(2) | 4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 | | |
| ◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。 | | | |
| <<回答>> 特に問題点はないと考えている。 | | | |
| ★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 以下に後期課程のCPを示す。前期課程はこれに準ずる。 教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー） 文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1 教育内容 (1)「中国文学」「中国史学」「中国哲学」の3領域から専門分野を選択し、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国 | 変 更 | 有() 無(✓) | |

| | |
|---|---|
| <p>哲学演習」のいずれかを中心に学ぶ。</p> <p>(2) 演習科目群では、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」といった科目の履修を通して、研究テーマの設定、文献読解力、文章表現力を育成する。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(1) 演習科目、研究指導等の少人数科目を利用し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>(2) 海外での研究を推奨する。</p> <p>(3) 成績評価をもとに、自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。</p> <p>3 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、中国学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 3年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文の評価を行う。</p> | |
| 評価の視点1 【基礎要件●】 | 上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。 |
| 評価の視点2 【基礎要件●】 | 上記の方針は、学位授与方針に整合している。 |
| 評価の視点3※ 【基礎要件●】 | 上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト (大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7 |
| <p>★※DPとCPの連関について (DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</p> <p>DP1 (1) (2) → CP1 (1) (2) 中国文学特殊研究、中国哲学特殊研究、中国史学特殊研究、中国文学演習、中国哲学演習、中国史学演習、文化史特殊研究、中国音韻学特殊講義、中国語 英語 国文学特殊研究</p> <p>DP2 (1) → CP1 (2)、CP2 (1) 中国文学特殊研究、中国哲学特殊研究、中国史学特殊研究、中国文学演習、中国哲学演習、中国史学演習、文化史特殊研究、中国音韻学特殊講義、中国語 英語 国文学特殊研究</p> <p>DP3 (1) → CP2 (1) (2) 中国文学演習、中国哲学演習、中国史学演習</p> <p>DP3 (2) → CP1 (2)、CP2 (1) (2) 中国文学特殊研究、中国哲学特殊研究、中国史学特殊研究、中国文学演習、中国哲学演習、中国史学演習、文化史特殊研究、中国音韻学特殊講義、中国語 英語 国文学特殊研究</p> | |
| <p>★項目(2) 4-2DP1からDP3について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか (あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のもので、なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p> | |
| <p>≪回答≫</p> <p>DP1で示した専門的な高度な知識と技術、文献の読解や言語の使用に関しては、CP1で示した演習科目のなかで養成している。DP2で示した課題の発見、考察、論理的文章表現は、CP1(2)、CP2(1)の演習科目や研究指導で養成している。DP3(1)で示した幅広い問題意識、専門的職業人としての社会貢献は、CP2(1)(2)の演習科目、研究指導、海外留学を通して養成している。DP3(2)東西文化の融合と新しい文化の創造は、古典的素材を今日的な観点から解釈し、文章などに表現することを通して実現している。</p> | |
| <p>★教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p> | |
| <p>≪回答≫</p> <p>特にありません。</p> | |
| 点検・評価項目(3) | 4-3教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 評価の視点1※ | 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-2*大学院学則、A4-43Web サイト シラバス |

| | |
|---|---|
| 評価の視点2※ | 学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー |
| 評価の視点3※ | 専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ |
| 評価の視点4※ | 学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2* 大学院学則 |
| 評価の視点5※ | 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-2* 大学院学則、基礎要件確認シート9、10 |
| 評価の視点6※ | 教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス |
| 評価の視点7※ | 編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要） |
| 評価の視点8※ | コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要） |
| 評価の視点9※ | 専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ |
| 評価の視点10 | 学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。 |
| ★項目(3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。 | |
| <回答> 今までの所、専攻として授業科目や教育施策の中で特にキャリア教育を行っていない。ただ、キャリア教育として位置づけられていないが、公費留学の枠が設けられており、自らのキャリアを形成していく一助としている。また、院生発表会や院生用の研究誌として『中国学論集』を発行し、発表の場を提供している。 | <根拠資料> 31-C4-1: ①「2023 年度大学院学生外国留学制度による留学生の募集について」 ②「中国学論集」 |
| ★項目(3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。 | |
| <回答> 中国文学、中国哲学、中国史学の多分野を学べるように配置しており、多角的に理解することを促している。 | |
| ◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。 | |
| <回答> 特にありません。 | |
| 点検・評価項目(4) | 4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。 |
| 評価の視点1※ | シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス |
| 評価の視点2※ | シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制 |
| 評価の視点3 | 学習の進捗と学生の理解度の確認 |
| ★項目(4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。 | |
| <回答> 専攻として組織的に講じている措置や対応はない。研究指導の中で指導教員がそれぞれの手法で対応している。 | <根拠資料> 31-C4-2: なし |
| 評価の視点4※ | 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、（オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入） |
| 評価の視点5※ | 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス |
| ★項目(4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示して | |

| | |
|--|---|
| <p>いるかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。</p> | |
| <p>《回答》 専攻として組織的に確立している方法はない。研究指導の中で指導教員がそれぞれの手法で対応している。</p> | <p>《根拠資料》 31-C4-3：なし</p> |
| <p>評価の視点6※</p> | <p>研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート13</p> |
| <p>◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。</p> | |
| <p>《回答》 特にありません。</p> | |
| <p>点検・評価項目(5)</p> | <p>4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p> |
| <p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p> | <p>成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり <p>根拠資料→A1-2* 大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</p> |
| <p>評価の視点2※ 【基礎要件●】</p> | <p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>根拠資料→A1-2* 大学院学則、A4-36* 学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13</p> |
| <p>◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。</p> | |
| <p>《回答》 特にありません。</p> | |
| <p>点検・評価項目(6)</p> | <p>4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p> |
| <p>評価の視点1 【評価要件○】</p> | <p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。</p> <p>※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。</p> <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p> |
| <p>評価の視点2 【評価要件○】</p> | <p>学生の学修成果の測定方法を開発している。</p> <p>《学修成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p> |
| <p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p> | |
| <p>《回答》 【中国学専攻独自設定の評価指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 修士論文の成績 ② 博士論文の成績 <p>【測定方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① すべての博士課程前期課程院生が修士論文を提出し、合格できるか否かを基準に測定 | <p>《根拠資料》 31-C4-4： 部局（大学院等）ごとの評価指標(2022-2025)</p> |

| | | |
|---|--|--|
| 博士課程後期課程院生の8割以上が博士論文を提出し、提出者の8割以上が合格できるか否かを基準に測定 | | |
| ★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果(共通設定と、独自設定含む)について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。 | | |
| <回答> 【共通設定】 アンケート結果は、中国学専攻単独ではなく、全学的なものであるが、学生の満足度が高いことが確認された。 【独自設定】 2022年度、前期課程2年生3名(うち、2名休学中)のうち1名が修士論文を提出し、成績は合格であった。→実質、対象者1名で提出者1名。その1名が合格しており、目標は達成されている。 博士論文の提出・成績は、在籍者がいないため測定できていない。 | <根拠資料> 31-C4-5: ①「2021年度大東文化大学大学院修士時アンケート集計結果」 ②第2回文学研究科委員会議事録要旨(2022年5月16日開催) ③2022年度「修士論文審査報告書」 | |
| ★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。 | | |
| <回答> 測定対象となる院生人数が少ないため、専攻の教育プログラムの見直し等に当該結果を活用するため、複数年度の測定結果を参考にし、長期的スパンで取り組む必要がある。 | | |
| ★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。 | | |
| <回答> 測定結果の分析方法や活用方法を組織的に確立していないため、検討後に回答したい。 | | |
| 点検・評価項目(7) | 4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。 | |
| 評価の視点1※ 【評価要件○】 | 適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について | |
| 評価の視点2 【評価要件○】 | 点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。 | |
| ★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。他大学事例： | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 | | |
| <回答> 組織的な学習成果の測定方法が確立できていないため、客観的な測定結果データは存在しないが、学内で研究成果の報告会を設けて他の人の意見を聞くことは、院生の研究にとって貴重な機会であるとともに、院生が外部と交流してキャリアを形成していく上でも重要なステップと考えるため、院生研究会を定期的に開いている。また、論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、修士論文、博士論文の執筆にあたり、大学院全体で設けられている学術研究活動助成制度の利用も積極的に呼びかけ、学術的水準の維持、向上に繋げている。 | <根拠資料> 31-C4-6: 「大東文化大学大学院生に関わる学術研究活動助成規程」及び「助成申請書」 | |
| 項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。 | | |
| <回答> 評価方法等に組織的に対応する方法を検討していきたい。 | <根拠資料> 31-C4-7: なし | |

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

| |
|-----------|
| 長所・ 特色 |
|-----------|

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

| |
|----------------|
| 問題 点・ 課題 |
|----------------|

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

| カ テ ゴ リ | 計 画 番 号 | B票№ or 開始 年度 | 改善計画 (アクション プラン) | 内容(改善を要すると判断した 根拠) | 目標の評価指標 | 目標値 | 年度計画 |
|------------------|------------------|----------------------------|--------------------------------|---|---|--|--|
| ① | 2 | 2022- 4Ⅲ- 1(4- 7) | 測定・分析計画 の活用 | 測定・分析計画を活用し教育改善計画を実施する。 | 専攻で設定した評価指標を元に、修了時アンケート等から目標の達成度を検証し教育改善を検討していく。 | A(100%)：実施 B(80%)：計画 C(50%)：検討 D(20%)：測定・分析 | 2022 末結果：B 2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：B 2028：A |
| ① | 3 | 2023 (2022 ～継 続) | (中国学専攻)大 学院外国人招聘 者による講演会 | 外部講師(中国・台湾の研究機関)を招聘し、中国学に関するテーマで講演を行う。 | 1) 見聞を広め、語学力を磨くため、海外の研究者と交流する機会が必要である。2) 院生は幅広い専門領域の講義を受け、海外の研究者と交流する中で各自の研究における新たな視点や方法を見出すことができる。 | A(100%)：実施 B(80%)：講演会概要周知 C(50%)：講師との調整 D(20%)：実施検討 | 2023：A |
| ① | 4 | 2023 (2022 ～継 続) | (中国学専攻) 『中国学論集』 の発行 | 院生各自の研究発表を論文にまとめ、研究誌『中国学論集』に掲載して発行し、国内外の研究機関に配布寄贈する。論文集の編集等は院生が自主的に行う。 | 1) 研究成果は他者に対して発信されるため、的確にテーマを設定し発信する学習機会を設ける必要がある。2) 修士論文・博士論文を見据えての、問題設定の確認と、論文執筆の方法を身につけることができる。 | A(100%)：発行 B(80%)：編集 C(50%)：原稿のとりまとめ D(20%)：企画 | 2023：A |
| ① | 5 | 2023 (2022 ～継 続) | (中国学専攻) 院生発表会 | 院生各自のテーマに沿った研究成果を中間報告し、批評や指導を受ける。論文完成までに2回実施し、1回目は院生が企画・運営して行い、2回目は秋季漢学会大会において行う。 | 1) 研究成果を発信することや、内容が独善的にならないために、発表の学習機会を設ける必要がある。2) 批評や指導を受けることにより、各自の研究を再検討し、より高度な内容へステップアップできる。 | A(100%)：実施 B(80%)：発表会概要周知 C(50%)：発表者募集 D(20%)：実施検討 | 2023：A |

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

| |
|--|
| 2022年度<所見> 卒業生に対して修了アンケートを実施していることや、学修成果を測定するための評価指標の設定がなされたことは一歩前進として評価できる。測定された学修成果の活用指針を定めるなどして、教育課程の一層の改善・向上に繋がられた。DPの内容がCPにどのように反映されているか記述する項目4-2で、具体的な科目名との紐づけがされていませんでしたので、次年度は注意してください。 |
|--|

2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。

2023年度<所見>

項目(3)4-3②「当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性」の回答として、貴専攻の教育内容をもう少し詳しく記述していただきたかった。学習成果を把握するための測定方法は修士論文、博士論文の成績を設定されており、目標は達成されている。また、間接評価の満足度結果も検証されていることは評価できる。一方、測定対象となる院生人数が少ないため、複数年度の測定結果を参考に長期的スパンで取り組む必要があるという課題も認識されている。なお、事業計画のアクションプランでは『中国学論集』の発行や、院生発表会なども計画されておりこれらの運営、運営などは院生が主体的に実施することなので、成果の測定と評価指標に追加することも一考であろう。今後、評価方法等に関する貴専攻の「組織的な対応方法」の検討を期待したい。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

| | |
|---|--|
| S | 大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 |
| A | 大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 |
| B | 大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。 |
| C | 大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。 |

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を

考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。